

第13期東京都生涯学習審議会 第2回全体会

次 第

令和7年4月25日（金曜日）午後2時から午後4時まで
（会場：都庁第二本庁舎31階 特別会議室22）

- 1 開会
- 2 議事
東京都の地域教育プラットフォームの課題整理
- 3 今後の予定
- 4 閉会

【配布資料】

資料 第13期東京都生涯学習審議会第2回全体会 審議資料

第13期東京都生涯学習審議会委員

(任期：令和7年1月23日から令和9年1月22日まで)

氏名	所属
アオヤマ テツベイ 青山 鉄兵	文教大学人間科学部准教授
アサクラ ミユキ 朝倉 美由紀	明星大学教育学部特任教授
イマ イユウスケ 今井 悠介	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事
クラモチ イブエ 倉持 伸江	東京学芸大学教育学部准教授
ササ イヒロミ 笹井 宏益	玉川大学学術研究所高等教育開発センター客員教授
シノ タヨトミ 塩田 琴美	株式会社CMU Holdings CEO/一般社団法人こみゅステージ代表理事
シシダ マナミ 志々田 まなみ	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官
タ ナカ マサヒロ 田中 真宏	特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所代表理事
フジハラ タクミ 藤村 琢己	一般社団法人Fora代表理事

第13期東京都生涯学習審議会 第2回全体会 審議資料

令和7年4月25日

1 開会

2 議事

東京都の地域教育プラットフォームの課題整理

3 今後の予定

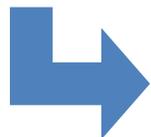
4 閉会

東京都の地域教育プラットフォームの課題整理

- 地域教育推進ネットワーク東京都協議会(本日)
- インクルーシブな学び東京コンソーシアム(第3回)

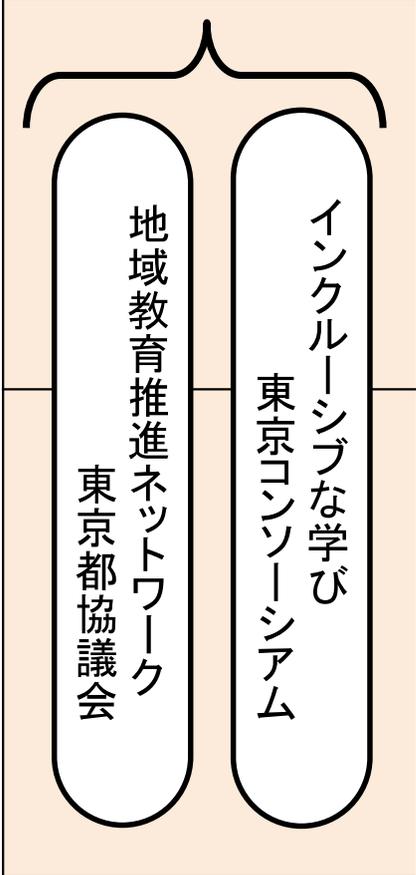
東京都の政策における審議事項の位置づけ①(第1回審議会資料)

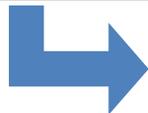
計画等 審議事項	「未来の東京」戦略 2024	東京都教育ビジョン (第5次)	東京都の地域教育 プラットフォーム 【生涯学習の事業基盤】
共生社会の 実現に向けた多様な主 体との連携 協働	互いに認め合い、 支え合う多様性に 富んだ社会の実現	教育のインクルー ジョンの推進	<p>地域教育推進ネットワーク 東京都協議会</p> <p>インクルーシブな学び 東京コンソーシアム</p>
地域と学校 の連携協働	人や地域のつながり を強化し、 Communityを活性化	社会全体の力を 生かした「学び」 家庭、地域・社会 と学校とが 連携協働する 教育活動の推進	



これからの東京の地域教育の在り方について

東京都の政策における審議事項の位置づけ② 令和7年3月

計画等 審議事項	2050東京戦略	東京都教育 施策大綱	東京都の地域教育 プラットフォーム 【生涯学習の事業基盤】
共生社会の 実現に向けた 多様な主体との連携 協働	<p>ビジョン08 コミュニティ 多様なコミュニティが 人々の支え合いを創出</p> <p>ビジョン09 共生社会 多様性を原動力として、 東京が更なる飛躍を遂げる</p>	<p>2050年代の東京の姿 学びのあり方を東京 から改革し、社会の変 化に柔軟に対応できる 「新たな教育のスタイル」 により、自分らしく 成長できる自由で多 様な学びが展開</p>	
地域と学校 の連携協働	<p>ビジョン08 コミュニティ 地域コミュニティの重要 性に改めて光を当てる</p> <p>ビジョン09 共生社会 共生社会の実現に向け た取組を一層推進し、 ありたい自分の実現を 後押し</p>	<p>東京の目指す教育 子供たちが、学校内 外での学びが、社会 や自分の将来とどの ようにつながっている かを意識し、学びの 意義や意味を実感で きる</p>	



これからの東京の地域教育の在り方について

東京都の新たな政策① 令和7年3月

グローバルに活躍したい
官民協働の推進を

育児と仕事を両立したい

男性育業の推進を
新たなビジネスに挑戦したい

もっと魅力あふれる街へ

地元をもっと魅力的にしたい
スポーツを楽しみたい

東京産ブランドを盛り上げたい

再エネの実装を

いきいきと自己実現できるように

若者のチャレンジを応援

中小企業にもっと支援を

色々な生き方があっていい

ナイトライフを楽しみたい

国際競争力の強化を

DXを進め「手取り時間」を増やす

もっと柔軟に働きたい

世界一安全で安心な都市へ

芸術や文化を世界に発信したい

次世代モビリティの実現に期待

GXやDXへの投資を

女性が活躍できる社会へ

キャリア形成のサポートを

災害に万全の備えを

自然と調和したまちづくりを

地域コミュニティの活性化を

ヒートアイランド対策の推進を

もっとチルドレンファーストへ

子供を安心して育てたい

住み慣れた地域で必要な医療を 観光資源の開発を

リスクリングしたい

豊かなシニアライフを

外国語を身に付けたい

2050東京戦略

～ 東京 もっとよくなる ～

令和7(2025)年3月
東京都

08

コミュニティ (Community)

2050年代の
ビジョン

支え合いの輪を拡げ、誰もが 「つながり」を実感できる社会へ

- 地域における**コミュニティ・交流の場や居場所**が充実し、
地縁や血縁を超えた**新たなつながり**も創出されている
- NPOや企業等の多様な主体で構成される**コミュニティ**が
いたるところに誕生し、助け合いの文化が**まちに浸透**
- 一人ひとりの状況に応じた**多様な手法**も活用しながら、
誰一人取り残さないきめ細かい支援により、**望まない
孤独・孤立は根絶**

地域コミュニティの重要性に改めて光を当てる

- 地域コミュニティは、生活面での支え合いのみならず、教育、防災、文化など様々な機能を有す。住民相互の交流によって強固なつながりが生まれ、豊かな住環境が育まれていく。
- 地域のつながりを強化していくには、マンションが多い東京特有の住宅事情も踏まえることが重要。地域コミュニティの機能、重要性に光を当て、その中核を担う町会・自治会の活性化に取り組んでいくことで、改めて人と人とのつながりを実感できる社会を創り上げていく。

多様なコミュニティが人々の支え合いを創出

- 人は、地域のつながりのみならず、様々な場面で他者とつながり、支え合うことで、幸せを感じながら生きていくことができる。時代とともに変化する様々なコミュニティや支え合いの場を、都市や生活の中にかに生み出していくかが重要。
- オンライン上の「居場所」のほか、地縁や血縁を超えた新たな形のコミュニティが人々のつながりに大きな役割を果たすようになるなど、様々な主体によるコミュニティが人々の支え合いを創出し、東京ならではの助け合いの文化を浸透させていく。

望まない孤独・孤立を生み出さない

- コロナ禍を経て、人と人とのつながりは希薄化し、孤独・孤立は深刻化・顕在化。国は孤独・孤立対策推進法を令和6年に施行し、対策の強化に取り組んでいるが、今後も単身世帯の増加が見込まれるとともに、人々が抱える悩み・問題は複雑化・複合化している。
- こうした孤独・孤立の問題に対し、区市町村や支援に取り組む多様な主体とともに分野横断的な支援を行うほか、当事者の属性や生活環境等を踏まえたきめ細かな支援を展開し、誰一人取り残さない社会を実現していく。

<年齢階級別人口に占める単身世帯数の割合>



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(令和6年推計)等を基に作成

(参考) AIによる都民意見の要約

- 2050年代の東京に関する意見を総合すると、地域コミュニティの強化とデジタル技術の活用が重要視されています。住民同士の支え合いや、子どもから高齢者までが安心して暮らせる環境の整備が求められています。
- また、多文化共生や地域経済の活性化、公共スペースの充実も期待されています。全体として、デジタル技術とコミュニティの力を融合させた、住みやすく持続可能な都市を目指すべきだという意見が多く見られます。

コミュニティを広げ、「人」が輝く

- 多様な主体の活躍や新たな担い手の参加を通じ、地域コミュニティやボランティアの活性化、居場所の創出を推進することで、人々のつながりを強固にし、コミュニティを拡大していく



09

共生社会

2050年代の
ビジョン

インクルーシブシティ東京は 多様な個性が輝きさらなる高みへ

- 多様性を尊重する価値観が浸透し、性別や年齢、障害、国籍などに関わらず、誰もが自分らしく活躍できる。一人ひとりの個性こそが東京の強み
- 最先端技術の実装で、障害や言語などの壁は打破され、いつでも誰とでも交流ができ、行きたい場所へは自在に行ける
- 世界で最も外国人が暮らしやすく、世界から「選ばれる都市」となり、都市の文化的多様性の高さを源泉に、東京が更に成長

共生社会実現に向けた取組を一層推進し、ありがたい自分の実現を後押し

- 東京はパラリンピックを二度開催した唯一の都市である。東京2020大会での「共生社会」の気付きを、一人ひとりのアクションへとつなげ、多様性と包摂性あふれるインクルーシブシティ東京を目指し、新たな制度構築や環境の整備、普及啓発等を推進してきた。
- 東京2025世界陸上や東京2025デフリンピックを契機に、共生社会実現に向けた取組を一層推進させるとともに、インクルーシブな教育の推進、就労に困難を抱える方への活躍の場の創出、障害児とその家族への支援強化等により、誰もがありがたい自分の実現につなげ、一人ひとりの個性を東京の強みとして転換させていく。



あらゆる人々の交流・移動の可能性を広げ、誰もが活躍できる社会に

- 都内各地でユニバーサルデザインのまちづくりを推進するとともに、デジタルを活用した移動支援策の導入や情報バリアフリー、心のバリアフリーを進めてきたことは、東京2020大会の大きなレガシーである。
- ユニバーサルコミュニケーションや移動支援技術は日々進歩しており、2025年の世界陸上やデフリンピックは普及拡大の絶好の機会である。最先端技術をまちへ広く実装し、あらゆる人々の交流や移動を実現し、誰もが活躍できる社会へとつなげていく。

多様性を原動力として、東京が更なる飛躍を遂げる

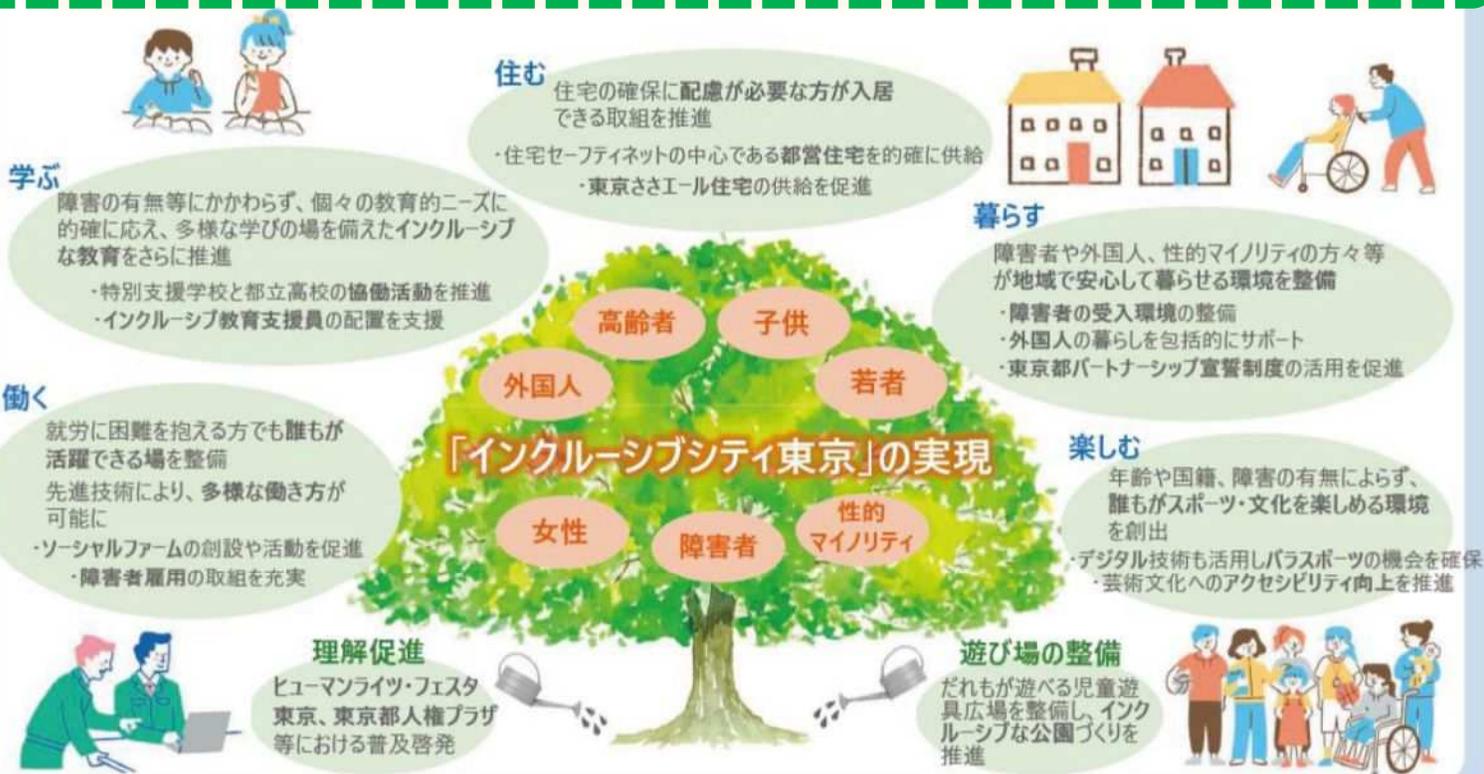
- 人種・文化の多様性を持つ企業は、そうでない企業と比べ優れた業績を達成する割合が高く、多様性がイノベーションの原動力となることを示唆している。企業を都市に置き換えて考えれば、都市としての多様性は東京を更なる高みへ導くこととなる。
- 国籍や文化的背景等の違いを認め合い、誰もが自分らしく暮らし、活躍できる社会を実現していく。これにより、東京が世界から選ばれ、多様性にあふれた都市へと発展し、更なる成長を遂げていく。

(参考) AIによる都民意見の要約

- 2050年代の東京に関する意見は、多様性と共生を重視した社会の実現を強く望む声が多く見られます。特に、持続可能で共生的な社会や社会的包摂、多文化共生、高齢化対応社会など、多様な価値観や世代が共存する都市を目指す意見が多いです。
- また、AIとロボットの共存により、技術の進化と経済的安定を図ることが期待されています。全体として、安心して暮らせる調和の取れた未来の東京が求められています。

インクルーシブシティ東京は 多様な個性が輝き更なる高みへ

- 東京で働き、暮らす誰もが共に交流し、支え合う「インクルーシブシティ東京」を実現
- 多様性を尊重する価値観が浸透し、環境整備や最先端技術の実装により、一人ひとりの個性が強みとなり、東京をさらに成長させていく



東京都の新たな政策② 令和7年3月



《やさしいことば版》



《子供版》



1 2050年代の東京の姿

すべての子供が希望を持って、自ら伸び、育ち、未来を創造



- これまでの**学びのあり方**を東京から**改革**し、社会の変化に柔軟に対応できる「**新たな教育のスタイル**」により、自分らしく成長できる**自由で多様な学び**が展開されている
- **予測困難な時代**を生き抜く力を身に付け、**世界を舞台に新たな価値や経済を協創**する**グローバル人材**を次々輩出している
- 教職員の働き方改革が進み、多様で優秀な指導者が、世界トップの人材を育成する**東京の教育の仕組み**を日本の**教育のスタンダード**に

3 東京の目指す教育



誰一人取り残さず、
すべての子供が
将来への希望を持って、
自ら伸び、育つ教育

ポイント

- 子供たち一人一人が個性や強みを伸ばして、自ら伸びようとする意欲を高め、自分らしく成長できる
- 子供たちが、学校内外での学びが、社会や自分の将来とどのようにつながっているかを意識し、学びの意義や意味を実感できる
- 教育DXによって、子供たちがいつでもどこでも、自分に合った学習の進度や方法で学ぶことができる

東京の目指す教育の実現に向けた3つの学び

- 子供一人一人が、何のために学ぶのか、学んだことがどう役立つのかを実感、理解
- 子供一人一人の学習の進度や興味・関心の度合い、発達の段階等に応じた学びを追求



- ICTを活用し、何をどのように学ぶのかという観点から、一人一人に最適な学びと協働的な学びのベストミックスを図り、教え方や学び方を改革

子供の意欲を引き出す学び

ICTの活用による学び

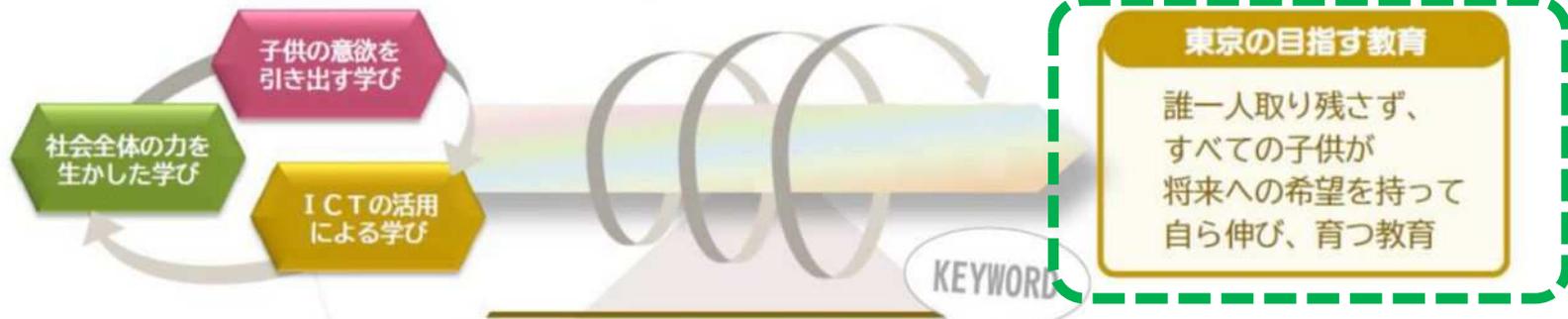
社会全体の力を生かした学び



- 子供一人一人のおかれた様々な状況に応じて、学校、家庭、地域、区市町村、関係機関等が互いに連携し、社会全体で子供の成長を支援

東京型教育モデルをバージョンアップして「新たな教育のスタイル」へ

東京の目指す教育の実現に向けて、3つの「学び」を有機的に連携させ、日々実践・改善



「東京型教育モデル」を **次世代の学びの基盤を作るプロジェクト LPX** Learning Platform Transformation でバージョンアップ!

一人一人に最適な学びを実現するため、
学びのあり方そのものを見直し、「**新たな教育のスタイル**」を検討



多様な学びの場で、いつでも学べる



教職員は、子供の学びの伴走者になる



興味関心に応じた学びを実現できる



学びのデータを子供も教職員も活用する

審議の枠組みについて

「未来の東京」戦略
2024

2050東京戦略

東京都教育ビジョン
(第5次)

東京都教育
施策大綱

東京都の地域教育プラットフォーム

地域教育推進ネットワーク
東京都協議会

・地域と学校の連携協働

インクルーシブな学び
東京コンソーシアム

・共生社会の実現に向けた多様な
主体との連携協働

これからの東京の地域教育の在り方について

【検討の方向】

- ① 東京都の地域教育が約20年展開してきた学校を核とした地域学校協働活動と、企業やNPO等の多様な主体による広域的な活動をより一層推進する方策を検討する。
- ② 東京都の地域教育プラットフォームである「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」と「インクルーシブな学び東京コンソーシアム」それぞれの成果と課題を踏まえた今後の在り方を検討する。

【第13期生涯審で御意見を
頂きたいこと】

東京都の政策に掲げられた考え方を、2つの地域教育プラットフォームを通してどのように具現化していくか？

東京都の地域教育プラットフォームの課題整理

- 地域教育推進ネットワーク東京都協議会(本日)
- インクルーシブな学び東京コンソーシアム(第3回)

地域教育プラットフォーム構想までの東京都の社会教育施策の変遷①

成人を対象とした生涯学習・社会教育施策の展開

年（西暦）	都の社会教育施策をめぐる動き
昭和55(1980)年7月	都政としてはじめて「生涯教育」という用語が使用される （『マイタウン東京構想コミュニティ部会報告』）
昭和60(1985)年1月	都知事を本部長とする「東京都生涯教育推進本部」が設置される （事務局：教育庁社会教育部計画課）※全庁的調整の事務局が教育庁に設置
昭和61(1986)年4月	臨時教育審議会第二次答申「生涯学習体系への移行」
10月	東京都生涯教育推進懇談会報告「東京都における生涯教育推進のための学校教育」 （事務局：指導部指導企画課）
昭和62(1987)年6月	『東京都生涯学習推進計画—東京における学習社会の実現をめざして』
平成元(1989)年12月	「東京都生涯学習推進本部」設置
平成2(1990)年6月	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律成立
8月	国・生涯学習審議会発足 教育庁社会教育部を生涯学習部に改組
平成4(1992)年4月	東京都生涯学習審議会条例施行
平成6(1994)年6月	第1期東京都生涯学習審議会答申

地域教育プラットフォーム構想までの東京都の社会教育施策の変遷②

学校教育を支援・補完する社会教育行政へ

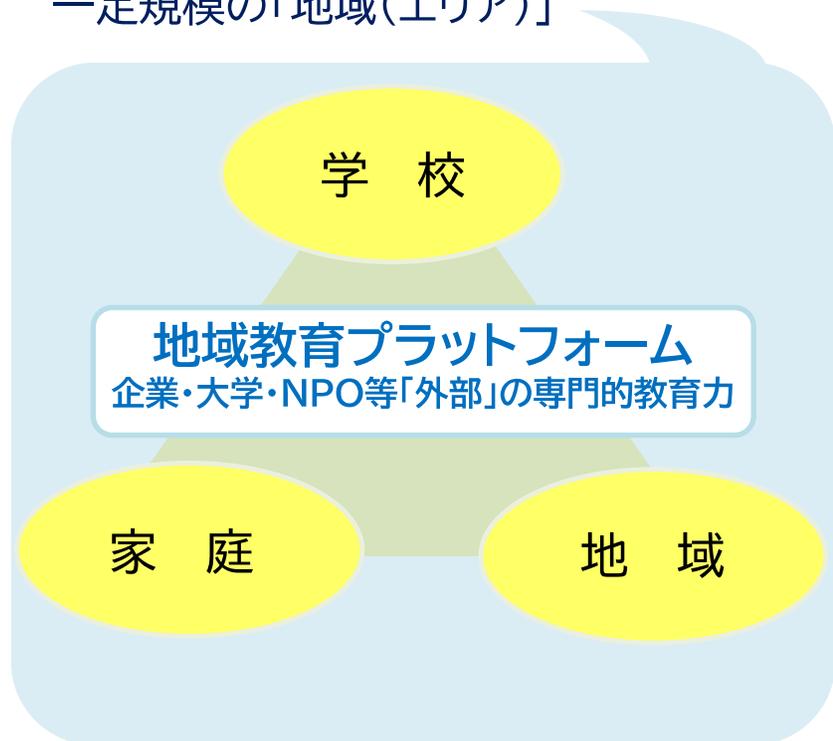
年（西暦）	都の社会教育施策をめぐる動き
平成8(1996)年	「東京都行政改革大綱」「東京都財政健全化計画」
平成13(2001)年3月	東京都五日市青年の家閉所 (以後、2005年3月までに青年の家7所の廃止)
平成14(2002)年3月	文化行政の一元化（教育庁文化振興事業を生活文化局に移管、教育庁文化課廃止） 東京都生涯学習センター廃止、都立多摩社会教育会館事業系の廃止
4月	「地域教育サポート・ネット」事業施策化 (杉並区、板橋区、足立区、立川市、小平市)
平成15(2003)年3月	中教審答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」学校・家庭・地域社会の連携・協働が重要と言及
5月	第5期東京都生涯学習審議会発足
平成17(2005)年1月	第5期東京都生涯学習審議会答申による『地域教育プラットフォーム構想』
8月	地域教育推進ネットワーク東京都協議会発足

地域教育プラットフォーム構想のはじまり(第5期答申)

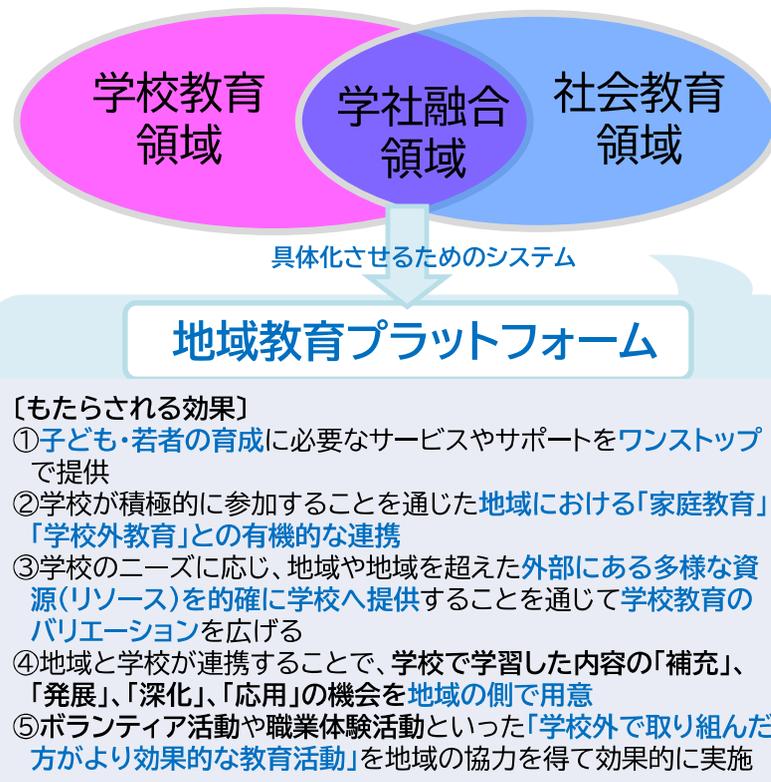
学校・家庭・地域の教育力を再構築するためのしくみ

◆イメージ図

一定規模の「地域(エリア)」



◆教育行政の新たな施策枠組みとして「学社融合領域」の方向性を整理



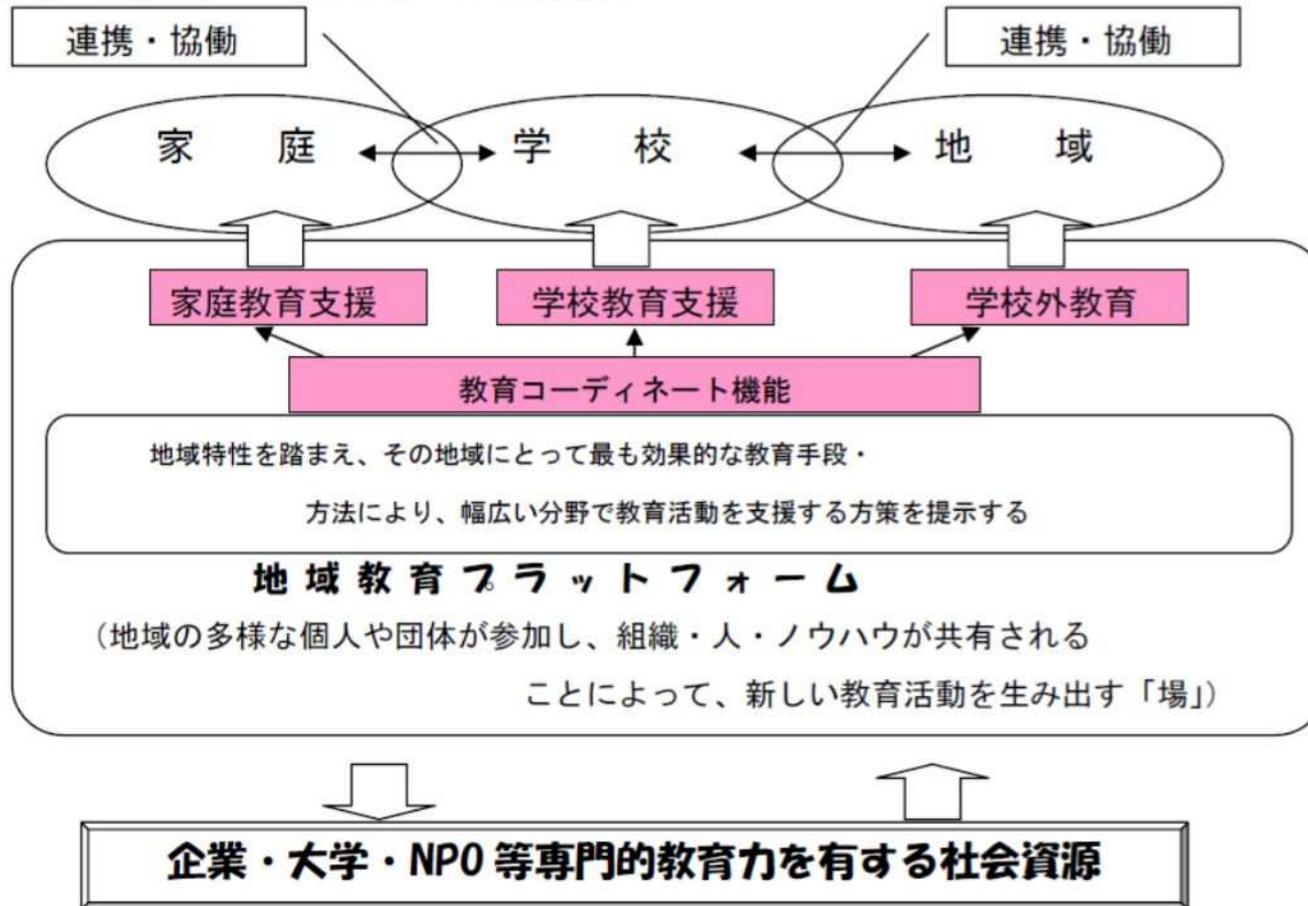
※「地域教育プラットフォーム」という名称は、平成11年2月に施行された「新事業創出促進法」に基づいて提案された、「地域プラットフォーム」(地域資源を活用した新事業創出を目的とした産業支援機関、大学、自治体などの事業創造支援のネットワークを指す。)この考え方を教育の分野に適用しようとしたものである。

※「地域(エリア)」の基本単位 ⇒ 複数の中学校区が連携した地域を設定

地域教育プラットフォームの概念図(第6期建議)

重層的なプラットフォーム ①学校レベル ②区市町村レベル ③都レベル

【図1】地域教育プラットフォームの概念図



「地域教育プラットフォーム」の全都的展開を図る上で、 都教育委員会に期待される役割

第5期東京都生涯学習審議会答申「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について
～『地域教育プラットフォーム』構想を推進するための教育行政の役割～」(平成17年1月)より抜粋

(1) 企業や大学等の有する専門的教育力を積極的に活用するためのしくみづくり

★施策案1 東京都「地域教育」推進ネットワーク協議会(仮称)の設置

(2) 「地域教育プラットフォームづくり」に向けた支援及び助言

★施策案2 区市町村教育委員会と連携・協力した「地域教育プラットフォーム」づくりモデル事業の実施

★施策案3 都教育委員会における社会教育主事と指導主事の連携による(「地域教育プラットフォーム」づくりや学社融合のための)区市町村教育委員会への指導・助言機能の充実

★施策案4 都立学校の「地域教育プラットフォーム」への参加促進

(3) 優秀なコーディネーターの確保、養成、スキルアップ

★施策案5 「地域教育プラットフォーム」の中核となるコーディネーターの養成及びスキルアップ

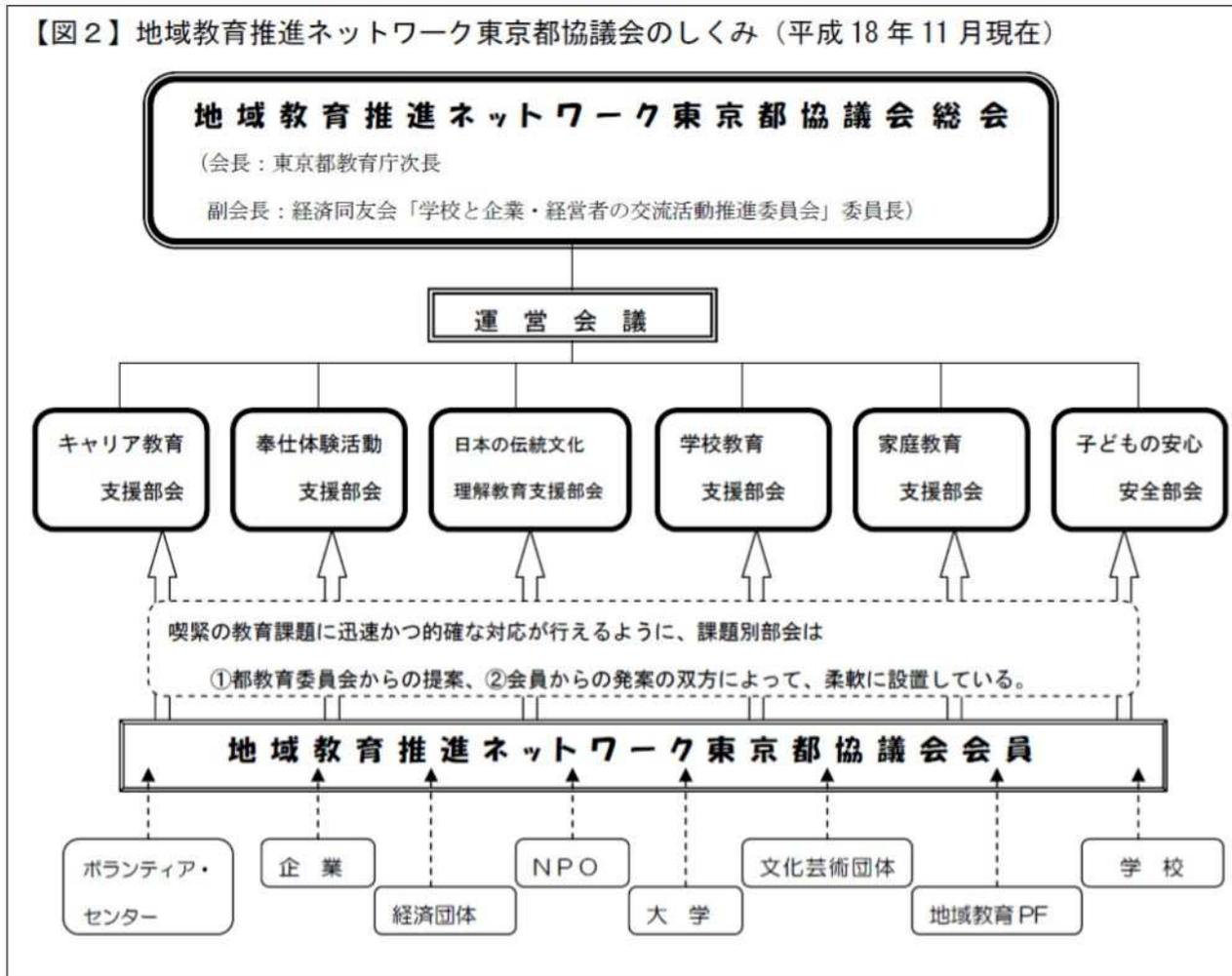
(4) 教員の資質向上(職業能力開発)への支援

★施策案6 教員対象研修、教員への意識啓発の実施

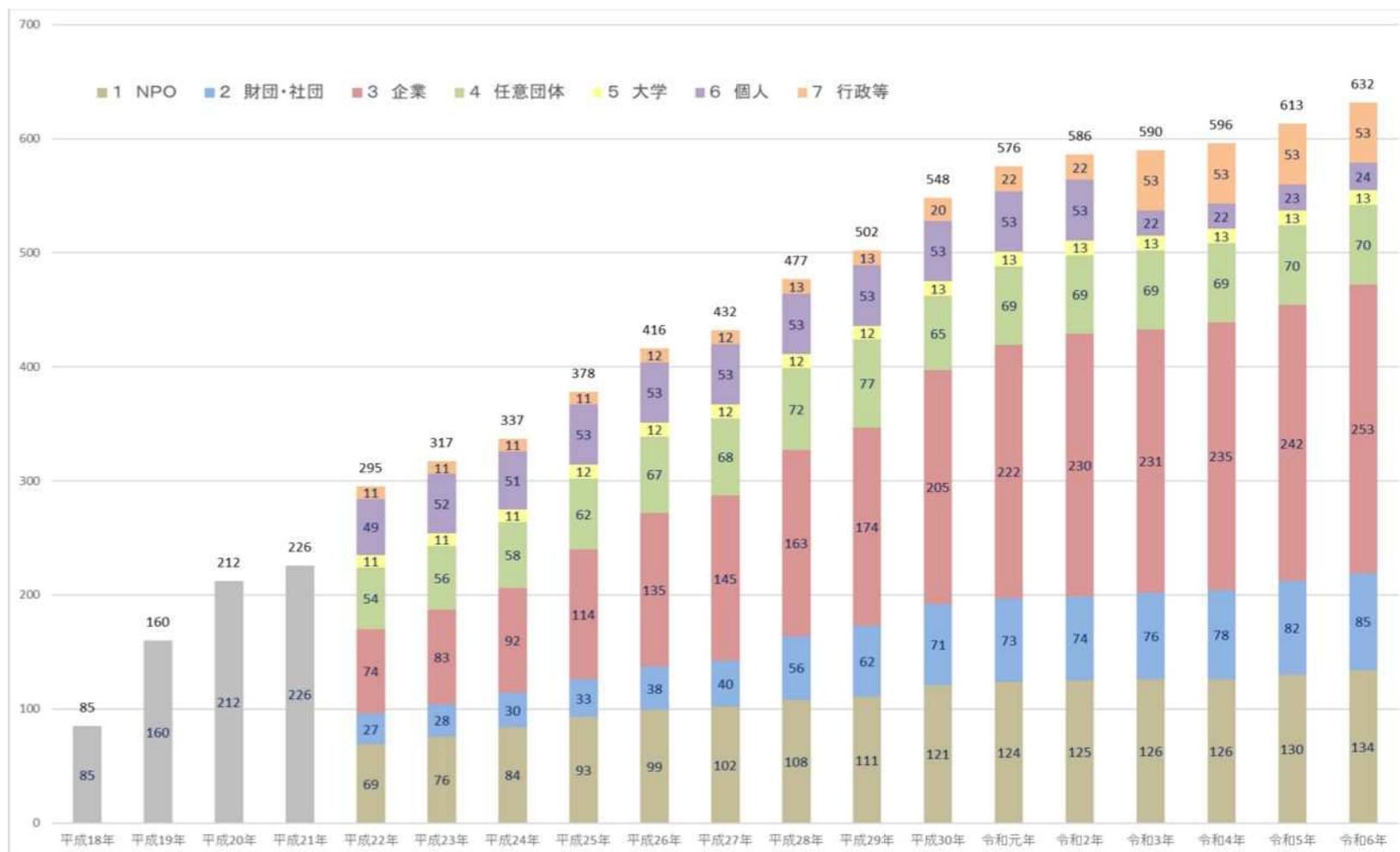
地域教育推進ネットワーク東京都協議会の成果①

(1) 企業や大学等の有する専門的教育力を積極的に活用するためのしくみづくり

① (賛同) 会員団体 (=プログラム提供団体)



② 会員団体の推移地域教育推進ネットワーク東京都協議会会員団体数の推移



◆各年4月1日現在

※平成18年度から平成21年度までは団体内訳の統計なし ※団体数は累計（退会申し出があった場合を除く）

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の成果②

(2) 「地域教育プラットフォームづくり」に向けた支援及び助言

① 区市町村における具体的な施策

学校を支えていくのは

地域の 応援力!

ハッピー
トライアングル

学校 子供 地域

【学校支援ボランティア推進協議会事業】に取り組んで
子供たちの**学びの可能性**を広げてみませんか

1 地域の応援力 このしくみで 学校をバックアップします

学校支援ボランティア推進協議会は、国の「学校支援地域本部事業」を活用し、地域の志ある人々と学校が一体となって、公立の小・中学校の教育活動を支援するための取組です。地域コーディネーターという役割を担う人たちが中心になり、学校の教育方針を受けて、学校支援ボランティアなど学校外の方を募集することで、子供たちの学びをサポートしていきます。



*「学校支援ボランティア推進協議会」を設けることで、上記のように学校支援を体系的に行うしくみをつくることができました。

【地域コーディネーター】が 学校と地域の橋渡し役を担います

地域コーディネーターとは?

【学校支援ボランティア推進協議会】のメンバーとして学校の活動を支援し、コーディネーター、ボランティア等との連絡を行う、パイプ役としての役割を担います。
*協議会よりPTA、学校支援コーディネーターとして呼びかけられます。

コーディネーター業務の流れ（ゲストティーチャー導入の場合）



2 例えばこんなことが 実現します

地域の人もが支援する内容とはどのようなものでしょうか。
 図書館活動などの「学校環境整備」のほか、「教科」、「教材」、
 「総合的な学習の時間」、「クラブ活動・部活動」といった
 教育活動に関することと、それぞれにたくさんの支援内容があります。
 ここでは、支援項目の例と、実施された内容を紹介します。
 支援の具体的なイメージを膨らませてください。



車椅子体験
総合的な学習の時間

弁護士による
裁判所見学の実践授業
社会

折り紙名人に習う伝承遊び
総合的な学習の時間

地元作家による
学校展覧会ワークショップ
学校行事

百人一首大会のサポート
学校行事

★学校支援活動の例

小学校・中学校の教科

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 国語
●読書、読み聞かせ
●筆習字、書法
●書道検定 | 社会
●公民館などの文化活動の紹介
●地域探検活動 | 算数・数学
●算数づくり
●算数の学習シート | 理科
●植物の観察 ●動物の観察
●理科実験シート ●実験観察シート |
| 図画工作・美術
●絵画教室 ●書道
●陶芸の学習シート | 体育・保健体育
●園芸活動 ●水泳 ●運動会
●おたのしみ会などの学習シート | 音楽
●音楽教室 ●民謡 ●歌謡
●民謡、三味線、唱歌、尺八、琵琶など
●日本の伝統音楽 ●世界の音楽の紹介 | |
| 保健
●健康講座 ●食生活
●交通安全講座 ●防災
●高齢者の生活などについて | 家庭・技術・家庭
●調理実習 ●生活
●家庭科の学習シート ●子育ての体験 | 英語
●英語学習シート
●英検の学習シート ●英検、英検
●英検の学習シート | |



地域の安全マップづくり
総合的な学習の時間

花嫁へのサポート
学校環境整備

図書ボランティアによる
読書活動サポート
学校環境整備

新付餅によるダンス指導
クラブ活動

- 総合的な学習の時間など
- リサイクル、エコエネルギーの節
 - 自然保護の活動紹介
 - 車椅子体験
 - アイマスク体験
 - 高齢者福祉体験
 - 点字
 - 手話
 - パソコンの使い方
 - ネットリテラシーの節
 - 伝統料理の紹介、食事のマナー
 - 外国の紹介、海外生活の体験の節
 - 英語・書道
 - 地域に役立つ伝統文化や伝承遊びについての節
 - 職業体験
 - 職業についての節

- クラブ活動・部活動
- パソコン
 - 手話
 - 料理
 - 陶芸
 - 西洋音楽
 - 軟式野球
 - 卓球
 - 空手
 - 吹奏楽
 - 剣道
 - 柔道
 - 相撲
 - 水泳
 - アニメーション
 - コンピュータ ●グラフィックス
 - 野球
 - サッカー
 - バスケットボール
 - テニス
 - バドミントン
 - 水泳



スポーツ指導者による
タグラグビー指導
体育

お茶づくり
総合的な学習の時間

企業人によるお話
キャリア教育

おたのしみ会のサポート
学校行事

半紙による読書会との交流
福祉

職業人にインタビュー
キャリア教育

- 学校環境整備
- 図書室
 - 机上資料室
 - グラウンド
 - 芝生
 - 花壇
 - 緑地
 - 生物の飼育
- 学校行事
- スポーツ行事
 - 行事の企画運営
 - レクリエーション行事
 - 献花等の創設
- その他
- 朝晩読書（読み聞かせなど）
 - 朝読ひき取り
 - 安全管理
 - 校外授業の引継ぎ



クリスマス演奏会のサポート
学校行事

商店街でのお店参観
キャリア教育

伝統の餅を受け継ぐ餅づくり
学校行事

太鼓クラブのサポート
クラブ活動

地域に住む外国人との交流
国際理解

芝生環境のサポート
学校環境整備

3 地域の応援力によって 子供たちの教育を よりよいものとしします

「地域の応援力」が加わることで、
学校に新たな活力を感じるといふ声が多く聞かれます。

学校にとって

- ✓ 学校環境 (図書館・グラウンド・花壇・芝生等) の整備、運営のサポートが充実する。
- ✓ 授業の準備や学習支援の導入で、教員の負担軽減につながり、より充実した授業ができる。
- ✓ 専門家やプロとのコラボレーションが可能になり、学習に幅が広がる。

子供たちにとって

- ✓ 本物体験ができる、学びの機会が広がる。
- ✓ たくさんの人からの刺激を受け、コミュニケーション力や表現力の向上につながる。
- ✓ いろいろな人に助けられて育つことで規範意識が高まる。
- ✓ 地域の人をサポートし、見守ることで子供の生活リズムや授業態度の変化につながり、子供の学力、体力の向上が期待できる。

地域にとって

- ✓ 地域と学校の連携が深まり、交流の機会が増加する。
- ✓ 地域ならではの特性を活かした人材やノウハウの提供をすることができる。
- ✓ 地域の絆が深まり、地域が活性化される。
- ✓ ボランティア自身の生きがいづくりにつながる。

本やビデオでの情報でしか得ることができなかったような事例も本物に触れる体験ができる。(教員)



ゲストティーチャーの授業がプラスされることでより深い理解をもたらすことができる。(教員)

定期制で本を借りるのがとても楽しくなった。本を返るのが好きになってきた！(小学生)

憧れの仕事をしている人から話を聞くことができ、**勇気が出た。**(中学生)



地域の子供たちを自分の子のように見守る気持ちが芽生えた。(ボランティアスタッフ)

自分が経験してきたことが子供たちの役に立つことを知ってうれしかった。(ゲストティーチャー)



「学校支援ボランティア推進協議会」を通じ、実際に触れたり、専門的な力量のある多様な大人と出会うことで、子供たちがより多くのワクワク感や、うれしさ、楽しさを感じ取り、学ぶ姿勢に変化がみられるのです。学校支援の輪が地域に広がることで、学校、子供たち、関わる地域の人々がそれぞれにハッピーになれる。そんないい循環が生まれていくしくみです。



4 地域の応援力を サポートします!

「学校支援ボランティア推進協議会事業」は、地域ぐるみで学校を応援するしくみです。東京都では、平成13年度から各地域のコーディネーターを対象とした各種研修等を実施して、このしくみをサポートしています。



地域コーディネーター研修
地域コーディネーターのレベルアップを図るため、各エリアに出向いてコーディネーターを対象とした研修を実施しています。各区市町村の事業担当者へ、事業の実施状況やコーディネーター等学校支援の担い手の状況についてヒアリングを行い、各地域の実情に応じた研修プログラムを提案しています。



コーディネーターミーティング
各区市町村のそれぞれの地域で熱心に活動されている「コーディネーター」が、地域を越えて交流し、各地域のさまざまな取組事例に触れる機会です。一人一人のレベルアップ、地域を越えて広くコーディネーター同士が出会い、情報共有する。このふたつが「コーディネーターミーティング」の目指すところです。



コーディネーターフォーラム
社会貢献の一環として教育支援プログラムを提供する企業やNPOなどとコーディネーターが出会う機会を設けています。コーディネーターの情報収集の場として活用いただけるよう年に1回開催しています。

「学校支援人材ガイドブック」
都内各地で学校支援人材の養成を目指した取組として、「学校支援人材ガイドブック」(平成20年3月発行)を作成し提供しています。ボランティアやコーディネーター等向けに、学校支援の目的、方法、心構えを解説しており、研修等のテキストとして活用していただけます。



企業、NPO、大学等の専門的な教育力のネットワークづくり
子供たちの教育活動に、企業、NPO、大学等の専門的な教育力を効果的に導入するためのネットワークづくりを目指し、東京都教育委員会が平成17年8月に設立したのが「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」です。企業、NPO、大学等による教育支援プログラムに関する情報を提供しています。
【地域教育推進ネットワーク東京都協議会】
<http://www.yougai.metro.tokyo.jp/sesaku/schooling.html>



お問い合わせ
「学校支援ボランティア推進協議会事業」、各種研修や企業・NPO等による教育支援活動についてお知りになりたい場合は、下記担当に少御い合わせください。

「学校支援ボランティア推進協議会事業」 東京都運営協議会 事務局
東京都教育庁 地域教育支援部 生涯学習課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-6859
ファックス 03-5388-1734



令和6年度地域学校協働活動推進事業(地域未来塾含む)実施区市町村マップ

地域学校協働活動推進事業(地域学校協働本部)実施地区(6年度計画:39区市町 中核市八王子市含む)

■ 地域未来塾実施地区(6年度計画:33区市町村)

● コミュニティ・スクール実施地区(6年4月1日:44区市町村 小中学校合計885校)

「■」:小学校対象 「■」:中学校対象

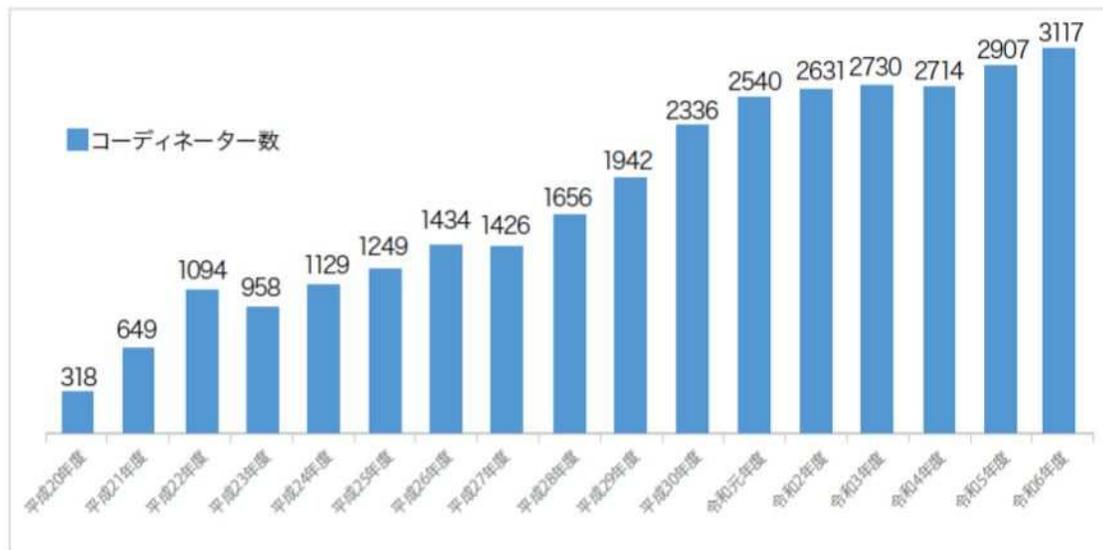


地域教育推進ネットワーク東京都協議会の成果③

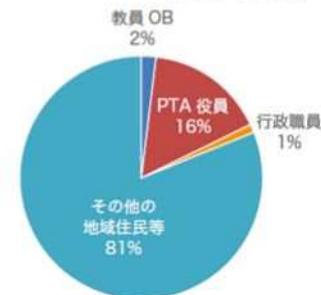
(3) 優秀なコーディネーターの確保、養成、スキルアップ

① 実施地区増加に伴う地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員) の配置増

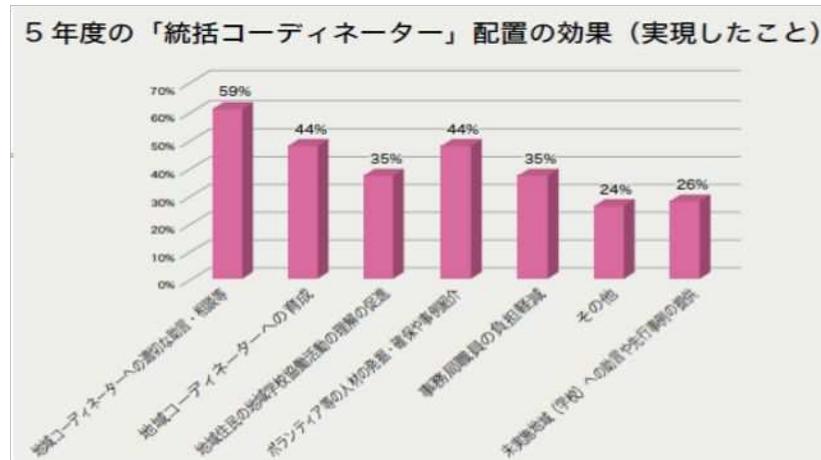
地域コーディネーター数の推移



地域コーディネーターの属性 (令和5年度実績)



② 統括コーディネーター（統括的な地域学校協働活動推進員）の配置促進による域内地域コーディネーターの確保、養成、スキルアップ等へ



【出典】『地域学校協働活動推進ハンドブック～令和6年度東京都地域学校協働活動推進事業（地域未来塾含む）報告書』38頁



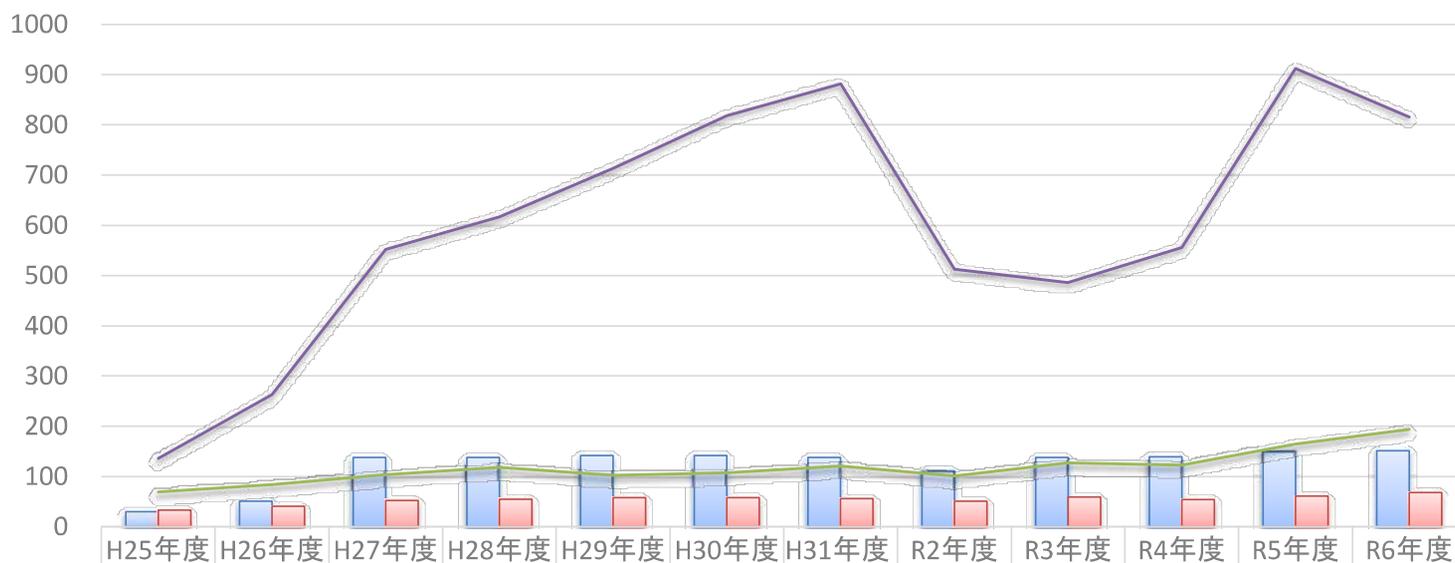
地域教育推進ネットワーク東京都協議会の成果④

(2) 「地域教育プラットフォーム」づくりに向けた支援及び助言

② 都立高校における具体的な施策

※ (4) 教員の資質向上の支援 ① 教員対象研修、教員の意識啓発の実施

◆ 「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」事業

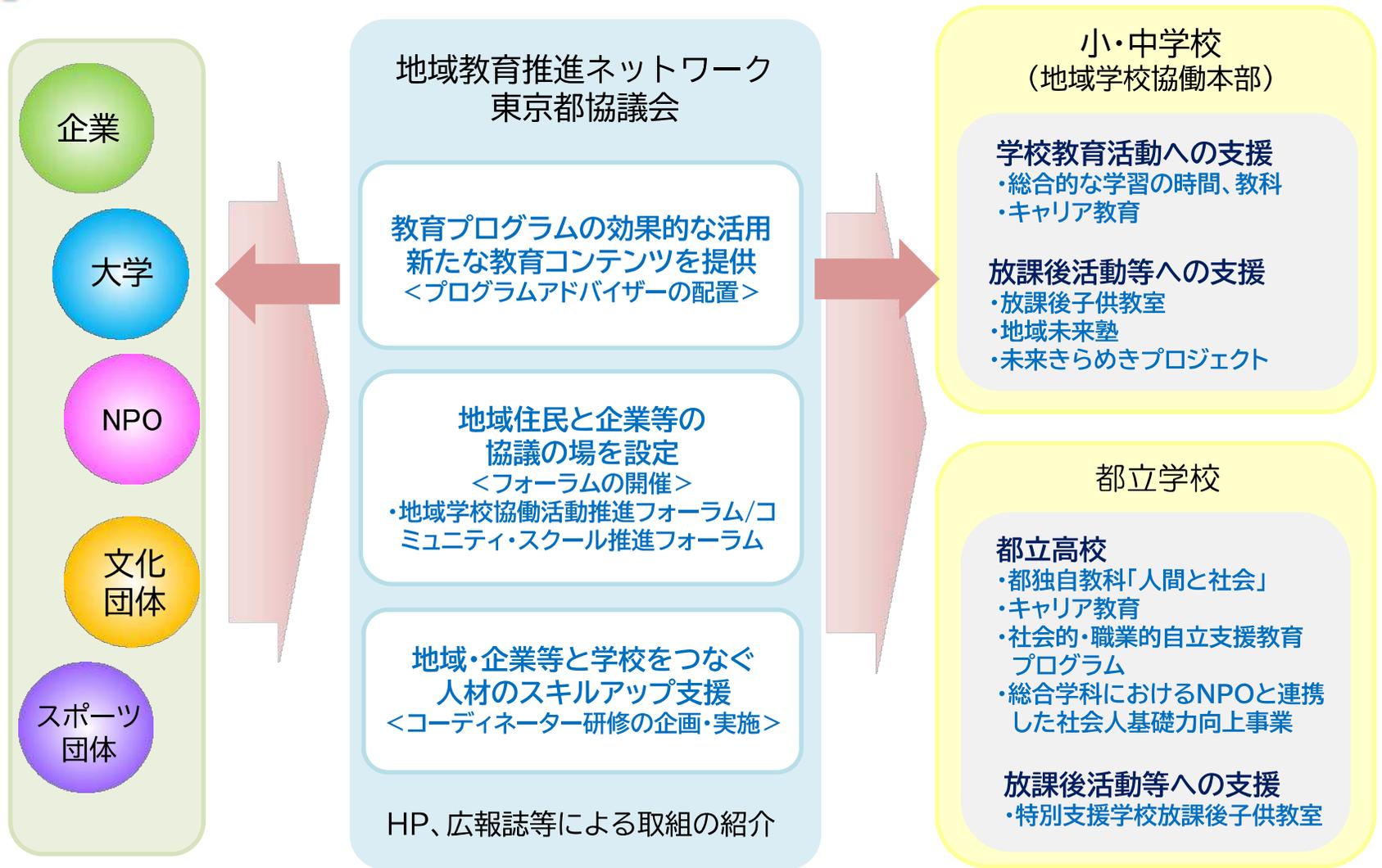


	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
■ 実施校数	30	51	138	138	142	142	138	111	138	139	151	151
■ 団体数	33	41	52	55	58	58	56	51	59	54	61	68
— 提示プログラム数	69	84	104	118	102	107	121	101	127	123	165	194
— 実施プログラム数 (延べ)	136	263	552	617	713	818	882	513	486	556	912	816

※提示プログラム数は有料プログラム数

- (1) 多様な専門的な教育プログラムを持つ
企業やNPO等にとって都教委における窓口
- (2) 都立高校における教育プログラムの活用の
コーディネート
- (3) 区市町村における地域コーディネーターへの支援
(統括コーディネーター等を通じた
教育プログラムに関する情報提供)

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の現在の概念図



地域教育推進ネットワーク東京都協議会の主な課題

- (1) 活用（導入）可能な多様な教育プログラムの継続的なアップデートについて
- (2) 区市町村（小中学校）における教育プログラムの活用促進に向けた効果的な支援について
- (3) 都立高校における教育プログラム活用に関するコーディネート機能の強化について

◆ 生涯学習課が実施する事業に協力する団体数（令和6年度）

実施事業名	団体数	プログラム数
小中学校対象		
『地域学校協働活動推進フォーラム/コミュニティ・スクール推進フォーラム資料集』教育プログラム掲載	49	49
未来きらめきプロジェクト（不登校児童・生徒に向けた体験活動）	5	—
都立高校対象		
都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム	68	194
総合学科におけるNPOと連携した社会人基礎力向上事業	2	—

※重複あり